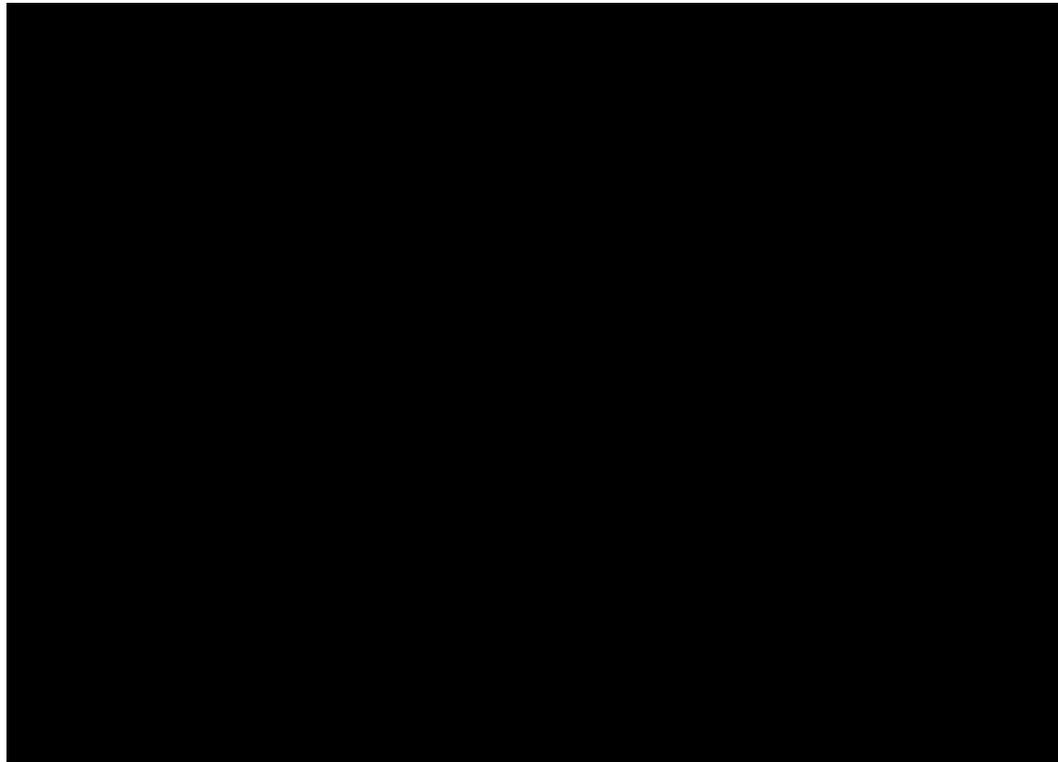


沿革

細川高国は管領職を18年間務めた。12代将軍に義晴を就け、補佐した。しかし1527年に柳本賢治、細川晴元、三好元永らが京都に攻め入ったために、細川高国は将軍足利義晴とともに坂本に逃れ、さらに翌年朽木に逃れた。将軍はここに2年半滞在した。

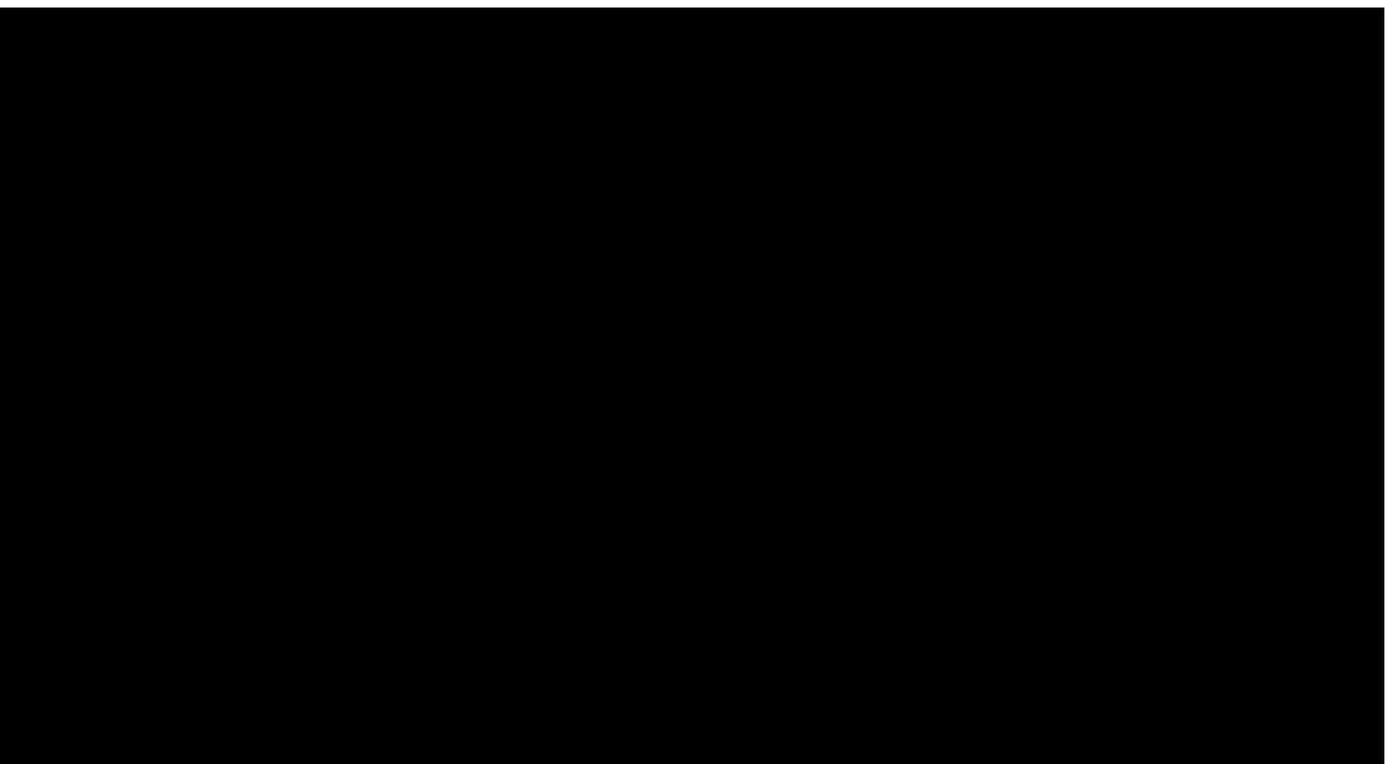
庭園

戦国武将の庭として知られている。しかし、一般的な戦国武将というよりは洗練された武将の庭だ。比較的小さな庭であるが、どのような角度から見ても飽きさせない凄さが溢れている。背後に低めの築山を築き、浅い池であるが

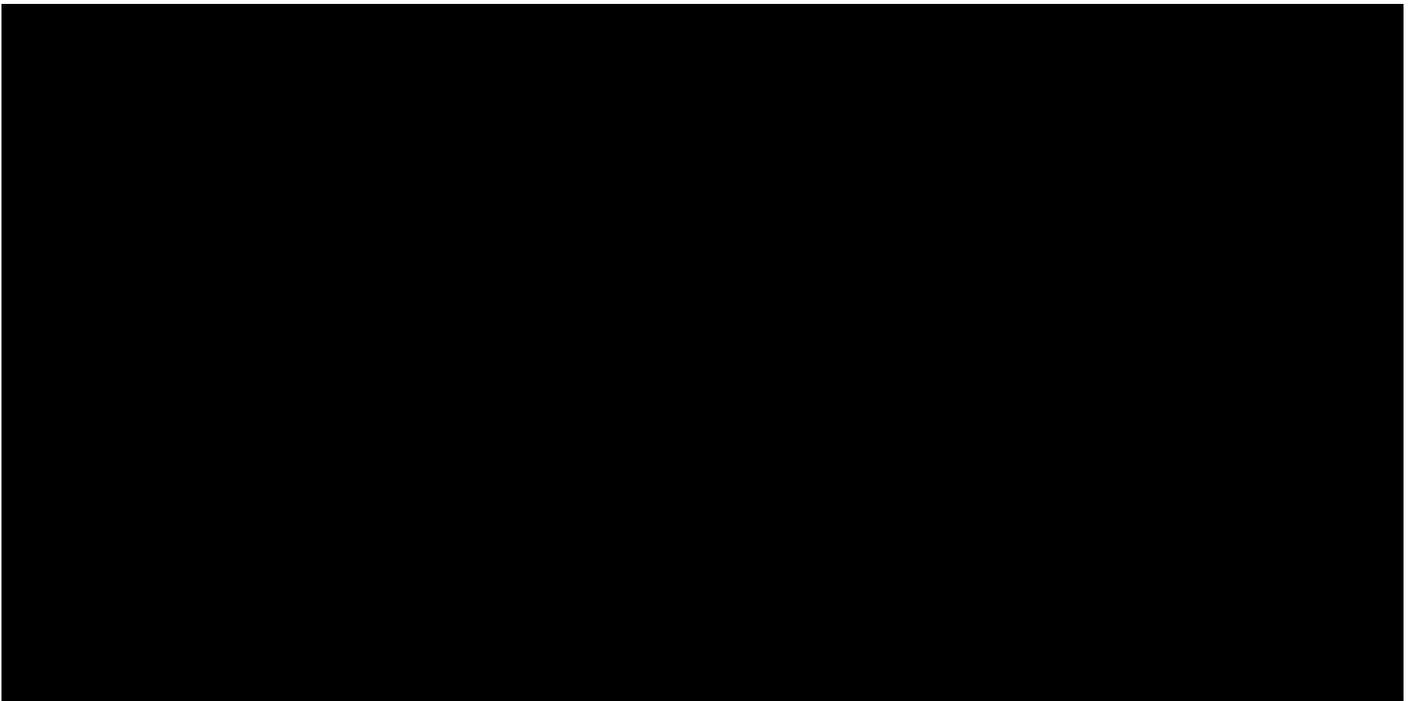


鶴島、亀島がある。鶴島は日本一ともいえる大胆な造形だ。亀島の亀頭石は元気よく垂直に組まれている。護岸は逆L字形に入り組まれている。出島に変化を添えている。護岸の石は縦石と横石がバランスよく組まれている。橋は厚いが低めに架けられている。このようにコンパクトでありながら小気味よい切れ味に溢れた庭である。足利時代最後の光芒を見る思いだ。

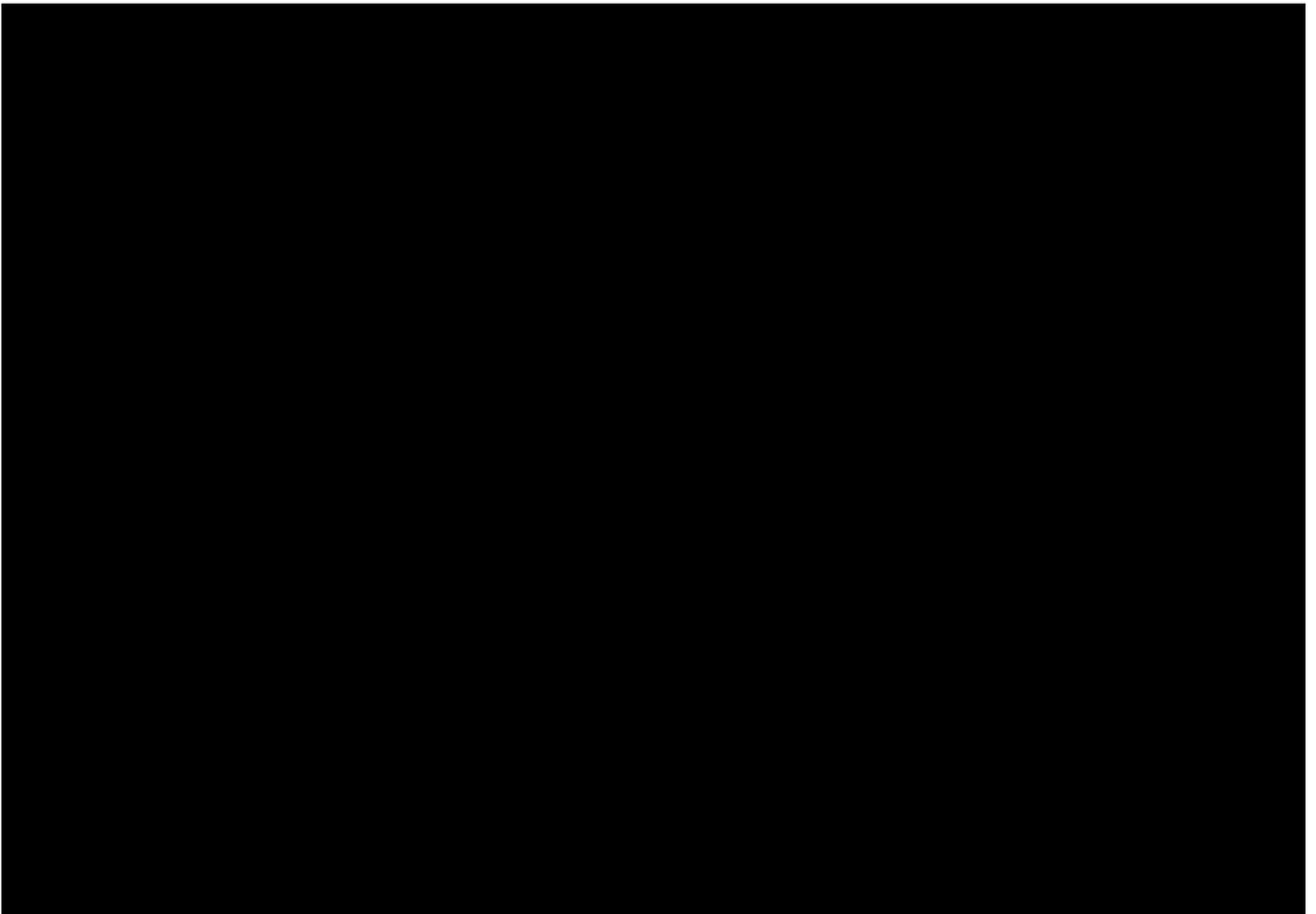
鶴島(右)と亀嶋



右に鶴島、左に亀島があり中央奥に蓬莱山がある。典型的な鶴亀蓬莱の庭だ。



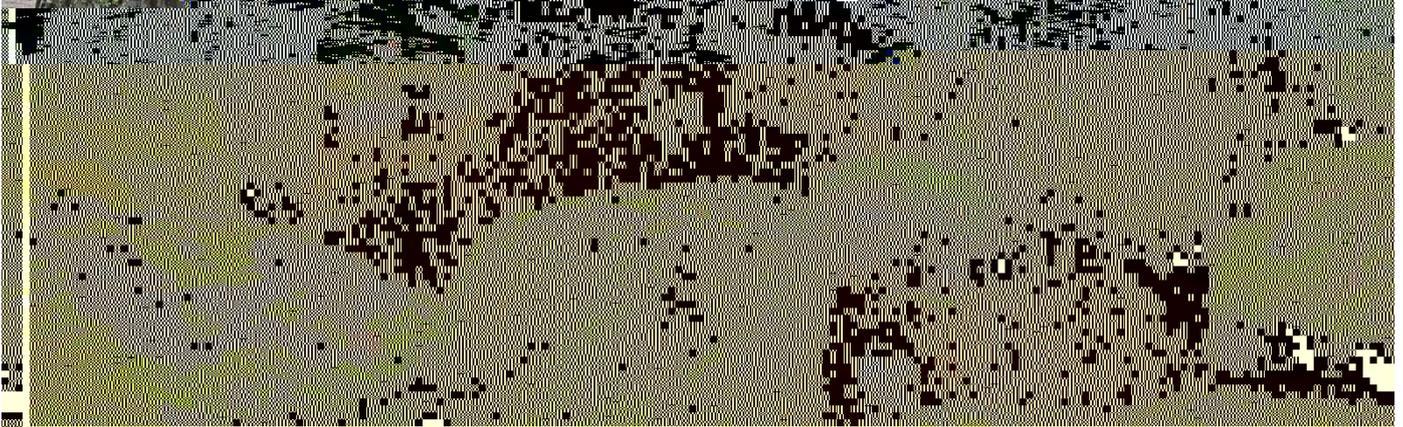
築山の蓬莱山側から地割を見ると、シャープに反り曲がった出島が互いに向き合っており、リズムカルなデザインだ。写真右上に亀島（左側が亀頭石、右側が亀尾石）、左上に鶴島の羽石が見える。



鶴島の裏側から見た護岸



鶴島の羽石を横から見ると、いかにも羽のような形をしている。出島に架かる石橋は戦国時代の特徴として分厚い石



迫力を感じさせる石組み



小ぶりな石ながら、メリハリのある秀逸な石組み